



## ◆ JICA 技術協力プロジェクト インドネシア本邦研修

JICA 技術協力プロジェクト「気候変動対策能力強化プロジェクトフェーズ2における長期気候変動予測にかかる能力強化プロジェクト」の一環として、インドネシア気象気候地球物理庁（BMKG）職員6名をわが国に招聘して、2022年12月4日（日）から16日（金）までの間研修を行い、気象業務支援センターが対応しました。

本プロジェクトは、気候変動予測情報を同国の地球温暖化適応策に適用する能力を向上することを目的として、2020年から2023年まで実施されているものです。プロジェクトを通じて気象業務支援センターは、インドネシアの詳細な地球温暖化予測情報の作成技術の開発を支援してきました。

本研修では、第1週目に気象庁気象研究所、農研機構、筑波大学及び茨城大学において、詳細な気候変動予測に関する様々な解析手法や最新の研究成果、わが国における地球温暖化情報の農業等への活用事例について学びました。また第2週目には、海洋研究開発機構（JAMSTEC）や気象庁において、エルニーニョ・南方振動（ENSO）やインド洋ダイポール現象（IOD）のメカニズムや異常気象分析ツール（iTacs）を使用した季節予報に関する情報解析について学ぶとともに、世界最大級のスーパーコンピュータである地球シミュレータを見学しました。

気象庁の講師からは多くの有益なアドバイスを頂きました。

研修生はいずれも、活発に質問をするなど積極的な態度で受講していました。また、最終日の評価会では、研修で学んだ知識を現在の業務にどう生かすかに加え、長期的な業務の方向についてのビジョンも明確に示しました。

休日には日本を体験するため筑波山を訪れました。インドネシアでは登山の習慣はあまりないようでしたが、たくさんの他のハイカーと共にロープウェイに乗るなどの経験をしました。

今回の研修に参加したのは最年長が30歳と、これからのインドネシアを背負う若者たち。今回の研修成果がインドネシアの気象業務のみならず、同国の発展に活用されることを祈っています。



気象研究所での研修風景

講師との間で活発に議論が行われました。



地球シミュレータ見学

このスーパーコンピュータでインドネシアの詳細な地球温暖化予測を行いました。



気象庁での iTacs 実習

季節予報作成を支援する異常気象分析ツール（iTacs）の使用方法を実習しました。



終了式



筑波山訪問

初冬の穏やかな筑波山を訪れました

（国際事業部）